

花巻市 博物館

目次／P1 館長のおすすめ資料／P2-3 新型コロナウイルス感染症拡大にかかる企画展等中止のお知らせ・館長コラム・行事予定・インフォメーション／P4-8 花博コレクションスペシャル



だより

2020. 8
No. **61**



花博コレクション *Special*
～館長のおすすめ資料～

Hanahaku collection Special



たかまつやまきょうづかぐんしゅつどはくじしじこ とこなめさんきんもんこ
高松山経塚群出土白磁四耳壺・常滑三筋文壺 花巻市指定文化財

平安時代の終わり頃全国各地に経塚が作られます。花巻では、標高260m程の高松山一帯に高松山経塚群が造営されました。これらの経塚群からは、白磁四耳壺や常滑三筋文壺の他に常滑甕や渥美片口鉢などが出土しております。これらの陶磁器は、経を納める容器や蓋として使用されたと考えられています。白磁四耳壺は、中国の宋の国から輸入された貴重なものです。12世紀東北地方を治めていた奥州藤原氏は、中国産陶磁器の中でも好んで白磁を輸入したとされていますが、その代表的なものが白磁四耳壺です。また、平泉文化にみられる国産陶器の多くは、愛知県の渥美半島や知多半島で作られた陶器でその代表的なものが常滑三筋壺です。高松寺があったとされる近くに造営された高松山経塚群の資料は、平泉文化を研究する上でも大変貴重な資料です。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に係る 展覧会・イベントの延期および中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年度に開催を予定していた一部展覧会を延期させていただくこととなりました。また、講座・ワークショップ等を含めたイベントにつきましては全て中止いたします。

現段階で開催予定の展覧会につきましても、今後予告なしに中止・延期となる場合がございます。楽しみにされていた方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

《展覧会》

●【延期】テーマ展「花巻の煌めく人と物」

会期：5月23日（土）～6月21日（日）⇒ 9月19日（土）～11月23日（月・祝）

●【延期】特別展「光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界」

会期：7月18日（土）～8月30日（日）⇒ 令和3年度以降（日程未定）

●【延期】テーマ展「鉄道と花巻―近代のクロスロード―」

会期：9月19日（土）～11月23日（月・祝）⇒ 令和3年度（日程未定）

●【延期】企画展「近世近代東北災害一件綴 ―東日本大震災から見た近世・近代の災害史―」

会期：2月13日（土）～5月9日（日）⇒ 令和4年2月～5月（日程未定）

※共同企画展「小野寺周徳」（12/5～1/31）、テーマ展「花巻人形」（2/13～4/4）は、当初の予定どおり開催いたします。

《展覧会関連イベント・博物館講座・ワークショップ》

●【中止】令和2年度開催予定のものすべて。

館長 コラム

胡四王山

宮沢賢治が晩年に使用していた手帳で、遺作のメモ「雨ニモマケズ」が記されている所謂『雨ニモマケズ手帳』の144頁に「経埋ムベキ山。旧天山、胡四王山、（後略）」とある。胡四王山は、宮沢賢治にとって神聖な山のひとつであったに違いない。

胡四王山の山頂には、胡四王神社が鎮座する。胡四王神社は、「こしおうじんじゃ」と呼ばれるが、胡四王山は、「こしょうざん」と「お」を略した表現が一般的である。「こしおう」や「こしょう」と言われる神社や祠は、新潟県、福島県、山形県、秋田県の日本海側寄りに多く分布しており、宮城県や岩手県にもいくつか存在する。そして、これらの神社や祠には、様々な漢字が充てられている。「胡四王」、「古四王」、「古志王」、「高志王」、「巨四王」、「越王」、「小姓」、「古将」、「腰尾」等々である。

新潟県新発田市五十公野の古四王神社は、標高 60 メートル強で山麓からの標高差 50 メートル程の高志王山に

在る。拝殿内には、古四王と高志王の両方の表記があるという。江戸時代後期の国学者であり紀行家でもあった菅江真澄（1754～1829）は、天明 4 年（1784）に信州から越後に入って出羽を目指していた時に、五十公野の古四王神社を訪れ、古四王神社の神について『高志菜』に記している。

菅江真澄は、翌年の天明 5 年に花巻の医師であり俳人でもあった伊藤脩（鶏露）宅に滞在している。菅江は、花巻の地名の由来や鳥谷ヶ崎城、琵琶の柵については少し触れているが、残念ながら花巻の胡四王神社に関する記述は見られない。

菅江真澄の『高志菜』には、「^{おおひこのみこと}大彦命をもって高志国を鎮護しめ給ひしゆゑに、此命を齋き古四ノ王とまをす。全く此の神は古四王に非らず。越王にておわしましき。」と記されており、現在でも「こしおう神」研究の基礎となっている。ただし、「こしおう」の神の背景には、記紀の神々と仏教の薬師如来や四天王が混在し、畿内政権と蝦夷との確執や阿倍比羅夫の遠征や坂上田村麻呂の征夷まで複雑に絡んでいる。また、地域によって祀られるこしおう神が異なる等難解な神様である。

（館長 高橋信雄）

行事予定

2020年11月
2020年8月

企画展示室

●テーマ展「花巻人形展 -収蔵資料展-」
会期：2月15日(土)～8月30日(日)

●テーマ展「花巻の煌めく人と物」
会期：9月19日(土)～11月23日(月・祝)

※展覧会関連事業は
全て中止となりました。

講座・ワークショップ

【講座】
中止となりました。

【ワークショップ】
中止となりました。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX:0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

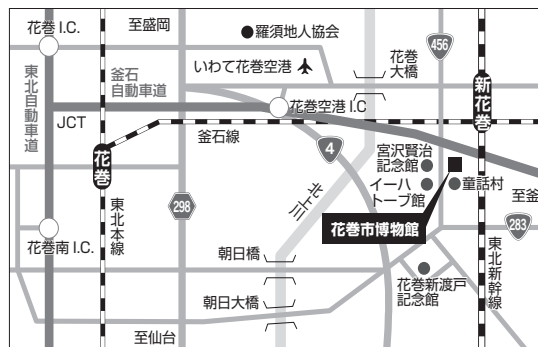
※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金

※割安な近隣 4 館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港 I.C.より車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口下車



◇ URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/>

花◊博コレクション Special

Hanahaku collection Special

今回は花巻市博物館収蔵資料の中から学芸員おすすめの資料をご紹介します。

■花巻人形 ー金太郎・七福神宝船ー

花巻人形は、岩手県花巻で江戸時代後期から約200年以上の間、作り続けられてきた土人形です。京都の伏見人形と仙台の堤人形の流れを汲み、花巻で独自に発展しました。東北地方には、各地に特色のある土人形があり、花巻人形は、仙台の堤人形、米沢の相良人形と並び、「東北三大土人形」と称されます。

花巻市博物館には、現在約3500点、577種類以上の花巻人形を所蔵しています。

数ある花巻人形の中から、今回は「金太郎」と「七福神宝船」をご紹介します。

《金太郎》



熊乗り金太郎

花巻人形には、様々な題材の金太郎が作られています。写真の金太郎は、鉈まさかりを担いで熊にまたがる代表的なポーズの人形です。

花巻人形の特徴である鮮やかな赤色が、金太郎の

全身に塗られています。大きな目、ふっくらした丸い顔、はち切れんばかりの肉付きの良い体つきは、元気はつらつ潑刺、生命力に満ち溢れています。赤色には、疱瘡ほうそうなど疫病除けのまじないの意味があるといわれています。肌の色が赤い金太郎は、子供たちの健やかな成長を願う思いが込められています。

《七福神宝船》



七福神宝船

花巻人形の縁起物には、七福神宝船もあります。様々な宝物を積んだ船に、七福神が満面の笑みで乗っています。花巻人形らしい花柄と鮮やかな赤色で彩られていて、恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、布袋、福祿寿、寿老人それぞれの神様の特徴も、一目でわかりやすく表現されています。

庶民の暮らしに彩いろどりを添えてきた花巻人形を、博物館へ来てたくさん愛でてください。

(学芸員 岡本雅子)

■関連事業

▽テーマ展「花巻人形展ー収蔵資料撰」

期 間：令和2年2月15日（土）～

8月30日（日）

花博コレクション *Special*

Hanahaku collection Special

■中世の遊び —サイコロ（賽子）—

花巻市北笹間にある笹間館跡から1点の陶製サイコロ（賽子）が出土しています。笹間館跡は、和賀地方（現在の岩手県北上市周辺）の中世領主であった和賀氏に関連する城館跡です。昭和61年（1986）に発掘調査が行われ、東西2つの郭とそれを区画する堀跡、土橋や複数の掘立柱建物跡等が確認され、陶磁器や大量の中国銭が出土しています。



笹間館跡

画像提供：公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

サイコロは、西の郭にあった門の柱穴跡から出土しました。サイコロの形状は一辺約1cmの立方体です。目は棒状工具で入れられており、対面する裏表の和が7になるように配置され、現代のサイコロの目と同じ配置をしています。

さて、中世の人々はどのようなサイコロ遊びをしていたのでしょうか。サイコロを用いた遊びとして親しまれたものの一つに双六（^{すごろく}雙六）があります。現在放送中のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』に登場する織田信長の父・信秀と医者・望月東庵が双六

に興じる場面を記憶している方もいると思います。

双六はサイコロとともに奈良時代以前に中国から伝わったといわれ、『万葉集』をはじめとする古代から中世の文芸作品、公家や僧侶の日記にも登場します。当時の遊び方は、現在の絵双六のようなものではなく、双六盤の上に白黒の駒（石）を並べ、2個のサイコロを振って出た目の数だけ駒を進め、相手の陣に早く入った方を勝ちとする競争型のボードゲーム（盤上遊戯）でした。駒の動きはサイコロの目の現れ方という偶然に依ることから、賭博として



陶製賽子（笹間館跡出土）
当館所蔵

の側面もありました。そのため、双六は人々を惑わせるとして禁止令が度々出されています。双六に関する最古の記述といわれる『日本書紀』の持統3年（689）にも「双六を禁じる」と記されており、古くから人々が双六に熱狂したことが窺えます。

当初は公家の遊びであった双六は、平安時代末頃から次第に武士や庶民にも普及していきました。中世には、武士の間で双六とともに四半（^{し いちはん}）や目勝（^{め ますり}）という賭け事も流行し、いつも同じ目が出るサイコロなどイカサマな細工が施されたものも作られました。

笹間館跡のサイコロに細工は見られませんが、この小さな出土品から、現代人が様々なゲームを楽しむように当時の人々も双六などを楽しみ、つかの間の遊びの時間に喜怒哀楽する姿が思い浮かびます。

（学芸員 高橋静歩）

花◆博コレクション *Special*

Hanahaku collection Special



凡例：  花巻二郡中縮図で描かれている範囲

花巻二郡中縮図（江戸時代後期）
125.0×116.0cm

■花巻二郡中縮図

この絵図は花巻郡代が管轄した8つの通とおを描いたものです。

盛岡藩3代藩主の南部重直しげなおの時代、寛永11年（1634）に、陸奥国10郡10万石の安堵状あんどうじょう（領地判物）が初めて出されました。安堵状とは、所領の支配を保障・確認する文書のことです。しかし、領地が広大な盛岡藩では郡の行政単位では支配に不都合が生じるため、幕府公認の郡のほかに独自の通の制度を設けました。各地に代官所を置き、その管轄区域を通と呼ぶようになったと言われています。全部で33の通は石高が約5000石になるように区分されたようで、耕地の多い北上盆地の平野部は細かく分かれ、山間部の多い地域は広い面積になっています。

花巻郡代は当初、花巻城代と呼ばれ仙台藩に備えていたのですが、平和な世になるに従い次第に行政官としての性格を強めました。周辺に代官が設置さ

れていくに及んで、花巻三町（四日町・一日市町・川口町）を管理するようになりました。花巻ではこのような事情から、郡代と城代の区別があいまいで、たびたびその名称が改められました。

花巻城下には、二子・万丁目、安俵・高木、八幡・寺林の6通（時に花巻通と称されました）の3つの代官所が置かれていました。2つの通を1つの代官所で管理していたのです。加えて、黒沢尻通、鬼柳通が花巻郡代の管轄地域であったと考えられ、この絵図はその地域を詳細に描いたものとなっています。同じ代官所が管轄する地域は同じ色で塗り分けられており、北上川の中央に地域の区分の線が入られるなど、非常に精密に描かれています。川筋は青、街道は赤、山々は緑色で描き分けられ、村の名前も書き入れられており、当時の花巻城、花巻郡代が管轄した地域を視覚的に一覧できる美しい絵図です。現在は保存のため額装し、常設展示室に展示しています。

（学芸員 小田桐睦弥）

花◆博コレクション *Special*

Hanahaku collection Special

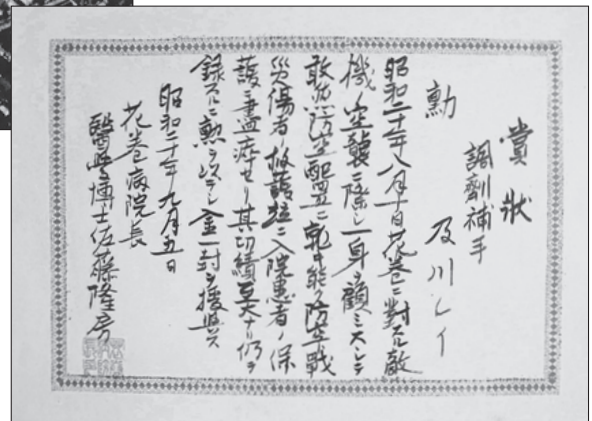


花巻空襲上空写真/昭和20年8月10日

(所蔵先：アメリカ国立公文書館)

アメリカ軍が記録のために撮影した写真で、「OBANAZAWA」を削除し、「ICHINOSEKI」と記されていたことから、長らく一関のものと考えられてきた。調査の結果、地名の記載が誤っており、実際には花巻空襲をとらえた貴重なフィルムであることが明らかになった。

煙が上がっているのが現在の上町・豊沢町周辺。写真上部には、爆弾を落とした米軍機の機影が写っている。



調剤捕手及川レイ宛の賞状
昭和20年9月5日

■花巻空襲関係資料

終戦間際の昭和20年(1945)8月10日、花巻の街は戦火に見舞われました。アメリカ軍による爆撃と機銃掃射が行われた花巻駅周辺は甚大な被害を受け、現在の上町、双葉町、豊沢町などの広い範囲が火災で焼失しました。この空襲で50名近い方が亡くなっています。

花巻病院では、駅で多数の負傷者が出ていたとの報告を受けて、現在の花巻高等看護専門学校にあたる、花巻産婆看護婦学校の学生を救護班として駅前に派遣しました。いつ再開するか分からない爆撃への恐怖のなか、多くの死者や重傷者を目の当たりに

しながらも、迅速に救急処置を施し、帰っては戦場のような病院内で昼夜もなく奮闘した当時の医療従事者たち。身の安全を顧みず負傷者の為に奮闘する姿を、高村光太郎は『非常の時』という詩で称賛しています。

空襲から約1ヶ月後の9月5日、花巻病院講堂において、空襲時の職員及び看護学生の功績に対する表彰が行われました。上記の賞状はその際に贈られたものです。

今年は花巻空襲から75年。未来の平和を守るために、かつての戦争の記憶とそれにまつわる資料を守り続けなければなりません。

(学芸調査員 松橋香澄)

花◊博コレクション Special

Hanahaku collection Special



材質形状 / 紙本着色，本紙 / 49.0 × 66.0cm

制作年 / 享和3年（1803）8月

落款 / 彭澤漁者滕明，印章 / 滕（白文印）明（朱文印）

八重樫 豊澤「^{しょうかこうし}松下高士図」

松の下^{しょう}の岩に寄りかかった老人と笙を吹く少年が描かれています。松の奥からの涼風^{りょうふう}が吹きよせ、笙の音色や松風の音を聞き、心地よい姿が印象的です。笙を吹く少年は、「招福」を連想させ、豊澤のユーモアを感じさせます。さらに、老人の衣服の朱色が、くつろぐ姿を引き立たせます。豊澤の人物画では、墨を主として一部に彩色を薄くつけるものが比較的多くみられます。

また、落款の為書には「^{きょうわさんねんほしみずのといにやどるあきはちがつ}享和三季歳次癸亥秋八月 ^{あんしこうのもとめにおうじ}應安子興之需製于 ^{なんぶこおりやまかおうていのとうがせいす}南部郡山蒼王亭燈下」と書かれていることから、享和3年8月に郡山にあった花王亭で、夜間に描かれたことがわかります。この頃の豊澤は、画人として志を立てて歩みだした時期で、自立していこうという意気込みがこの作品から感じ取れます。

（学芸員 小原伸博）